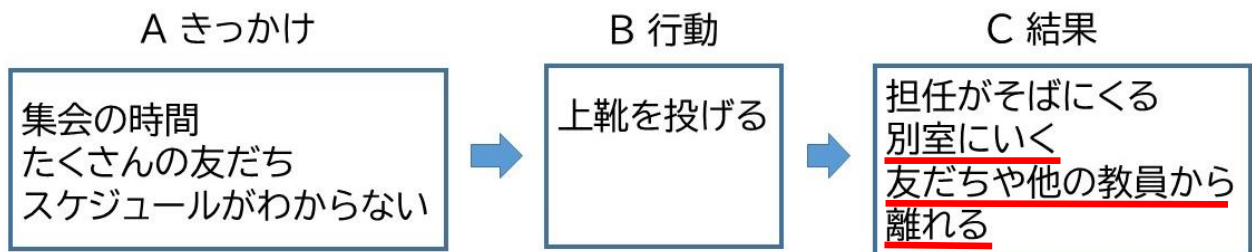


今回は、子どもたちの行動を教員の視点ではなく「子どもたちの視点」(機能分析)でとらえるお話をしました。

前回の ABC 分析をみましょう。



このケースでは、集会の時間に「上靴を投げる」行動が繰り返されている状況があります。「上靴を投げる」行動は「逃避」の機能が強いことがわかりました。集会の場面から離れるために上靴を投げている可能性があります。

※1つの行動であっても、「注目」「逃避」といったように複数の機能をもつ場合もあるよ！



では、なぜ、集会の時間がイヤでその場から離れたいのでしょうか？

このように、子どもたちの行動の原因を考えることを、「原因推定」と言います。原因については、ABC 分析の A や C に注目しながら、D くんに関わりのある複数の教員で検討できるとよいと思います。複数の原因がある場合も多いです。

そのときに気をつけてほしいことが、「思考をブロックしない」ということです。「なんとなく〇〇が原因のような気がする」と直感的に感じたことも意見として述べるのが大事です。「原因推定」に唯一の正解なんてもんはありません。ということは間違いありません。たくさんの原因推定の中から影響が強いと考えられる原因を特定していきます。

《原因推定の例》

「たくさんの友だちや教員がいる場所が苦手だから」

「集会の時間のスケジュールの提示がなく、見通しが持てないから」

「以前集会の時間に、突然友だちに話しかけられたり指名されたりしたから」

「集会の時間に参加することがイヤだと言えないから」など

次回は、整理した原因推定をもとに、解決策を考えていく過程についてお話させていただく予定です。

